

珍客ソデグロヅル

佐藤 弘

新潟県初記録という本種が 2016 年秋に越後平野に飛来した。音に聞く新潟コシヒカリの落ち穂をついばみに来たらしい。それがいつの間にか小社の裏手数百メートルの水田地帯に居ついて動かない事に、その頃野鳥撮影を始めた角田が気づいた。そこで二人のオジサンは考えた。なぜ他所へ行かない？餌動物が多いから。なぜ多い？無農薬か減農薬だから。なぜ？その風上側は集落と中之口川と家並み続きで耕作地がなく、他所で撒く農薬が飛んで来ないから、農家が自家用米を作ってる。オジサン達の結論はこれ。こんなズルっこい事を生産者が特権と言ったら、私は異議を申し立てる。ちがうだろ。

減農薬だとなにが違うか、トキが降り立つ佐渡の田んぼの例をローカルの番組で見た。子供らが傍らの小さな水路を手網ですくうとカエル・ドジョウ・タニシ・ヤゴなど、トキの餌になりそうな小動物の種類も数も豊富な事が一目瞭然だ。昔は当たり前だった。だから安心・安全な付加価値のある米として、手間暇掛けたぶん少々価格が上がっても消費者の理解が得られるのだろう。今どき安さだけで食べ物を選ぶ人はまずいない。

あのツルは年明けて立春の頃まで逗留していたのではなかったか。シベリア北極圏から山口・九州辺りへ越冬に渡ってきたものが、気まぐれに新潟まで出張っただからすごい飛翔力だ。オジサン二人が、繁殖期が始まるんだからサッサと帰れとやきもきする迄もなく、時期がきたことを悟り姿を消した。しばし優美な姿を眺めさせてもらった、まさに眼福。

さて、8年前の本編オオジシギの稿で、そのシギが北海道と豪州をノン・ストップで渡るといふ説に、仮定の下で4日間不眠不休で飛び続けられるとは思えないと述べた。しかし今、自身の不明を恥じなければならぬ。17年秋のある講演会に於けるシギ類の研究者による情報では、アラスカで放鳥した、ジオ・ロケーターという位置や時間が分かる発信機を背負った複数のオオジシギが、時速 60km で飛び続け 8日間不眠不休飲まず食わずで豪州に到着したという。もう、なにをか言わん、あんたらバケモノか、本当に鳥なのか。鳥も実にさまざまだ。



角田義秋撮影

お客さま、こんにちは！今年が実りあり幸多き年でありませう、心より祈念致しております。さて、これまではある程度決まった社員がこの通信に記載をしていましたが、昨年より元氣通信も枚数が1枚増え、新たに社員のペンリレーが加わりました。お手元にお届けする前に私のところに最終チェックが来るのですが、「へえー、こんな趣味をもっているのか！」「え？そうなの？」とビックリさせられることがあります。また多少の校正はするものの、みな結構文章をうまくとめて書いている。(身内びいきかしら？) 感心させられると共に、会社では見ることができない社員たちの一面を垣間見ることができたような気がしました(今号によると、当社に「鬼嫁」(自称)がいることが判明。) 今後もこのような形でペンリレーが進んでまいります、宜しくお願いくださいませ。

.....

昨年の十一月に取引先と銀行との親睦団体主催の旅行がありました。行先は「台湾」3泊4日。参加者十八名で添乗員同行、新潟空港発着、現地ではチャーターバスでしかも現地添乗員も同行、旅行中の食事も全て含まれているという、まさに「大名旅行」。内容も年齢層が高いツアーとしては結構ハードスケジュールだったので、このツアーの現地添乗員の女性(四十〜五十代?)がまたユニークというかパワフルというかスパルタで、年配の男性にも平気で「○○さん、あなた、またシートベルトしてないねー、私もう何度も注意したよー、今度しなかったらオシリたたくわよー」と、流暢な日本語でちよつと面白い節をつけて言うのです。

台湾ではシートベルト規制がとて厳しく、日本と違ってシートベルトをしていない人だけが罰金を科せられるそうです。なので到着してバスに乗った早々に必ずシートベルト着用をと言われていました。その他にも団体行動だから時間には遅れるな、敷居は踏むな、などと昔のちよつと口うるさいオバちゃん的な感じで遠慮なしに言うのです。ところがそれが全く気にならず、むしろおもしろがってみな彼女の口真似をする始末。

結局彼女の教養、人間性、添乗員としてのスキルの高さ、親切さが相まって、言われてもむしろ心地よさを感じたのでしよう。合わせて台湾という国が、昔の日本の良さを今に残していること、長幼の序を大切にしていること、歴史を重んじ、大切に守っていることを感じさせられた、思い出に残る良い旅となりました。

今も彼女の「いくわよ〜」「コケーココー、おはよー着きましたよー」が懐かしく耳に残っています。

お客様 元気通信 むけ

本年もよろしくお願い致します。



生産部 島貴 修一

「神経毒は即効性があり神経系の情報伝達を阻害して体を麻痺させる」すごい。「血液毒は血球・血管・細胞組織を破壊して出血と壊死を起こし後遺症も残る」うーん恐ろしいが「毒」の本は面白い。そして夢中になって読んでいるこの場所は、脳外科病院の待合室。

病院で「毒」の本を読むことに後ろめたい気持ちがないでもない。しかし定期検査では全ての結果が出るまで、待合室で何かをしながら過ごさねばならない。それには読書が最適で、歴史・洪水・植物・昆虫・アマゾン川・カレー・乳製品・塩・毒と分野を問わず読み漁っている。そのため病院と調剤薬局だけでなく、本屋にもお金を使ってしまうが。

検査では脳のMRIは直ぐに結果が出る。ところが血液検査は分析に1時間半かかるし、担当医が急患の手術の執刀のため他の医師に回されたりしたら2~3時間は待たされる。だから検査に行く時のバッグの中には、パン（採血前は食事できない）・数冊の本・飲み物のペットボトルとアーモンドチョコの箱が入っている。呼び出しの放送に注意しながら、最初にパンを食べてお腹を満たし、次に本を取り出し時々チョコを齧ってゆったりとくつろぐ。これこそ病院の待合室での正しい過ごし方とはお世辞にも言えないけど。

あっ名前を呼ばれた。診察室に入り担当医から検査結果の説明を受けるが、LDL値が高いと指摘された。いきなり現実の世界に引き戻された気分で、原因は飲み過ぎ（酒ではなく飲むヨーグルト）らしく、控えめに飲むように注意された。反省！

◆ちょっと豆知識◆その34 「知恵の対価」

技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

お取引先の皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。ありがとうございました。

最新の情報ですと平成30年もものづくり補助は継続とのこと。また、採択件数を大幅に増やして実施となる方針との記事が新聞に載っていました。「今年が最後」と言われて2,3年経ちましたので、そろそろ本当に終わりになるように思います。トライされる方は万全の準備で臨んで下さい。

さて、今回は少し毛色の違った話をば。

学生の頃、教養科目で取った経済学の授業で出された質問です。

「風邪を引いて医者に行って診察を受けたら、大したことはないから家帰って寝ておけ、と言われ、薬も処方されなかったのに¥5,000請求された。この金額の妥当性、また根拠は？」

皆様お分かりの通り、ドクターがその結論を得るのにそれまで要したコストに対する対価が¥5,000だった、が質問の解答でした。

日本の場合、ある商品を購入すると、その「上手な使い方」や「裏ワザ」的な、いわゆる「ソフト」に属する情報は、特段費用を払わずとも商品購入の「おまけ」として、ごく普通に付いてきました。

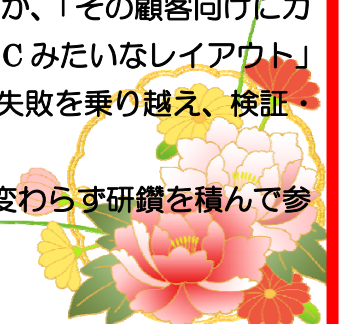
上述のような考え方が根強かったためか、ノウハウの伝授に対価を支払うコンサルティング業が日本ではなかなか市民権を得にくかったように思いますが、ここに来てようやく、ソフトにもお金を掛ける習慣が浸透してきつつあるように感じます。当社のお客様の1人が「コンサル入れるのは、最終的に時間を金で買うことだ」とおっしゃっておいでだったのが非常に印象に残っています。

そう、アイデア、ノウハウなどの「知恵」は、お金を払うに値する「価値」なのです。

コモディティ化した製品の購入なら安いに越したことはありませんが、「その顧客向けにカスタマイズされた製品」「一回限りの特別な搬入据付方法」「ウルトラCみたいなレイアウト」は、まさに「Priceless!」です。その知恵を捻り出すのに、数多くの失敗を乗り越え、検証・改善してそこに至っているのですから。

お客様の知恵袋であり続けるために、新洋技研工業は平成30年も変わらず研鑽を積んで参ります。

本年もご愛顧のほどを宜しくお願い致します。





サポート・新規事業PJ 山本知男

昨年も公私共々忙しく、盛り沢山の1年でした。仕事はお蔭さまでここ数年忙しさが続いてますが、私事で忙しいと言うのは所属している吹奏楽団で一大事件が起こったからでした。何と指揮者兼団長をやっていた人が退団しました。理由は団内のゴタゴタなどで書けませんが、運営と音楽面の両面を担っていた人の、しかも急な退団なので大騒動になりました。皆で協議して運営は協力しながら何とかする事にしましたが、音楽面はそうは行きません。大体皆、自分に甘く他人に厳しいので、皆が言い合うとまとまりが付かない。やはり信頼する指揮者がいて、その人中心に音楽を作るのが一番良い。なので、至急指揮者を探せ！ってなったけど、簡単に居るわけじゃないじゃん…、と思いきや、グッドタイミングで見つかりました。この春Uターンして近くに帰って来た人がいて、それまでは千葉、埼玉等々の吹奏楽団を指導して、コンクールでも良い成績を納めたてきた人が居ました。でも、そんな人がうちのバンドに来るかな？って心配したのですが、ナント、すぐに気が合ってやってくれる事になりました。

その指導方法に感心しました。今までの指揮者は団員指揮者で25年やっていたので、どっちもお互いの事を知り尽くして、うちのバンドはこういう曲は向かないとか、こいつにはこの曲は吹けないとか、指揮者と演奏者が大体同じ感覚を持っていたのが今まででした。だから無理しない、安全路線の方向が知らず知らずにあっただけです。

ところがこの指揮者は当然ながら我々の事は何も知らない、だから無理だろうが何だろうが押しつけてくる。「もっと吹けるだろ？今の倍の音量出せ！もっとキレイな音で！！」とかいろいろ言うて来る。この間も若い子でしばらく休んでいて最近復帰した人に、「もっと出るだろ、君の限界まで出してみろ！」とか無茶言うてる、と思ってその子を見たら真っ赤になって泣きそうになって頑張ってる…、でもその時本当に今までにない良い音がポンって鳴って、「それだ！！その音だよ！！素晴らしい！！、その音だよ！！」って指揮者が大興奮して、周りのみんなも泣きそうになって、本人は泣き笑いで…、ちょっと感動した瞬間でした。

この指揮者は結構無理も言うけど、出来ると大袈裟すぎる位褒めちぎります。何か上手く乗せられてる気もしますが、みんな褒められれば気分も上がるようで、最近では集まりも良くなった感じです。雨降って地固まるで、荒れた昨年もめは上々だった、かな。

さて、今年はどんな事が起こるか。平穩無事が一番ですが、多少の刺激なら良い？皆様に今年も良い年となりますように。

■【トレーニングの時間】

生産部資材 大矢 大祐

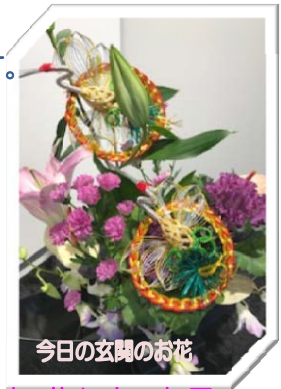
冬真っただ中、お鍋の美味しい季節です。

私の趣味は自転車です。天候・気温に左右されるので、この時期はオフシーズンになります。(もっともマウンテンバイクで雪中を走る猛者もいますが・・・)

この時期は基本的に別の筋肉を刺激する為、また気分転換に自転車以外のスポーツをします。

私の場合はランとスイムになりますが、とにかくランが嫌いで、体力維持の為に「作業」としてこなしていました。しかし、嫌々やっているうちに楽しくなってきたのです。大体夕方～夜に走るのですが、誰も居ないランニングコースを、夜空を見つつ自分のペースで走っているとこれもまた気分転換に丁度良く、結構はまってしまいました。(速くも無いですし距離も頑張って10Kmほどですが)

一度凍結した場所で滑ってしまい尻餅をついたのも良い思い出です。そんなことから近頃「トレイルランニングでも始めようかな」と、なにやら手段が目的になりそうな今日この頃です。



今日の玄関のお花



■【夫婦の時間】

生産部資材 佐々木 友里

「私の時間」・・・なんと難しいお題です。フルタイム勤務で子ども3人、毎日がとても慌ただしく、ゆっくり一人になれる時間はほとんどありません。じゃあストレスが溜まっていると言われるとそうでもなく、割と好き勝手やってる妻・母親だなあと自己分析。理解ある優しい夫のおかげです・・・。(ちょっとノロケ)

我が家はこの秋、結婚15周年を迎えました。夫も私もお酒好き、たまに2人で居酒屋へなんて話すと、周りからは「仲いいね」と言われます。また夫はいわゆる「いい旦那さん」なんだとか。それもそのはず、この15年で子育てと並行して頑張ったのが『夫育て』。家事を“手伝う”ではなく“共有する”、最近では家事シェアというらしいですが、これを徹底して叩き込みました。ものすごいスパルタで。その結果、ますますの兼業主夫に成長(^.^)v。

ここでは字数に限りがあるので省略しますが、夫の育て方に興味のある方は生産部の佐々木(鬼嫁?)までご一報くださいませ！